

2022 年度事業報告書

2022 年 4 月 1 日から
2023 年 3 月 31 日まで

学校法人コリア国際学園

I. 学校法人概要

1. 建学の精神

グローバル化・情報化が加速する21世紀の国際社会においては、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間が求められている。

コリア国際学園は、在日コリアンはじめ多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に見つめながら、確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として国々と境界をまたぎ活躍できる、「越境人」の育成を目指す。

全ての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、世界に開かれた国際学校として、東アジアはじめ世界の持続可能な発展に貢献する。

2. 教育理念と目指す学校像

- 1) 多文化共生／民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。
- 2) 人権と平和／人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。
- 3) 自由と創造／真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。

建学の精神および教育理念を具現化し、地域社会および国際社会に貢献する人材を育てる学校を目指す。少人数学校の特長を生かし、一人ひとりの学生の生活背景をしっかりと掴み、学びと育ちを支援し、その夢の実現に向けて共に歩む学校を目指す。来るべき東アジア共同体時代を展望しつつ、それを教育空間に先取りし、多文化共生の成功した学校モデルを提供することを社会に対する責務とする。

3. 名称 学校法人コリア国際学園

4. 住所 大阪府茨木市豊川2丁目13番35号

5. 設置する学校 コリア国際学園 中等部・高等部

6. 学科、修業年限並び定員

学科	修業年限	定員
中等部	3年	35名
高等部	3年	35名

7. 理事会・評議員会（2022年4月現在）

理事長名 金淳次

理事数 8名 監事数 2名 評議員数 19名

8. 教職員の現況 (2022年4月現在)

	専任	兼任	合計
教員	13名	19名	32名
職員	4名	2名	6名
合計	17名	21名	38名

9. 生徒数 (2022年4月現在)

	1年	2年	3年
中等部	14名	6名	14名
高等部	26名	13名	19名
合計	92名(40)		

()内はK-POP エンターテイメントコース

II. 教育活動状況

2022年度は、新型コロナウイルス感染が長期化し3年目に及ぶ中、4月5日ピロティ床放火事件（のちに「建造物侵入損壊事件」）が発生した緊張の中でスタートした。

コリア国際学園は、年間の教育活動最重点事項として①（新設2年目の）K-POP エンターテイメントコースの安定充実からさらなる発展へ、②英語教育の点検と強化、③「夢・希望・目標」を実現するための生き方を問いかけるキャリア教育の推進、の3点とした。

文科省の教育改革による2022年度から開始の高校新学習指導要領に則して、本校科目の一部変更を行い、文科省教育改革の3大ポイントとなる①「アクティブラーニングの実施」、②「英語教育改革（英語で授業）」、③「大学入試改革（一般入試でも課外活動等の重視）」において、本校が他に先駆けて実践している「ユニークな教育」を生かしながら、反面残念ながら現在弱体化していると思われる部分を補完して行く対策を講じて行くこととした。

KIS 教育理念に基づいた学校運営の永続性確保、さらなる生徒募集に注力しながら、コロナ禍の中でも徐々に海外研修の再開模索、高2 修学旅行(沖縄)と中3 修学旅行(淡路島、倉敷)実施正常化、TOPIK 会場(4月、7月)の利を生かした韓国語習得のレベルアップ、生野区廃校跡地利用(林寺小学校跡地、9/21 プロポーサル提出)に向けたアプローチ等を積極的に進めた。

1. KIS 教育活動の点検と発展

本校の校是である「越境する人」「多文化共生」「自由と責任」を学校教育のあらゆる場で実践するよう参画実行し、さらなる発展のある教育現場を目指し、「自由・自治・自立」の精神の確認と点検を行うことに大きな関心をはらってきた。

教職員会議、生徒会、保護者ミーティング、とりわけ教育評価諮問会議(3月)の場において、「自由と責任」を原則とした学校文化を作りあげるルール作りを進め、「自律できる人」の育成に力を注いだ。

また、KIS コースはじめ各コースの特色を最大限生かしつつ、学校として調和のとれた教育を推進し、豊かな人間性の育成と学力の伸長を目指し、「思考力」と「創造力」のある学力を身につけ、そのために各教科授業の公開や各種研修を通して教員の指導力向上を図ることとした。

2. 生徒募集

今年度にも生徒募集を学校運営の前途を切り拓く重要課題として全力を尽くしてきた。

KIS 各コースの教育内容充実を図りながら、新聞 TV マスコミを活用した広報活動に力を入れ、オープンスクール授業参観（5月10組22名、9月26組58名）の実効性をあげる努力を傾けてきた。結果、2023年度は40名の入学生転入生を受け入れることができた。

大きな前進であるが、前年度期首対比でほぼ同水準の生徒数に留まったのは、年間をとおしての転出を抑えることが出来なかったと言う点において、今後の徹底した分析と強力な対策が課題となった。

3. K-POP コースの充実と IB 教育の点検

K-POP コース生増加の中、今後もこのコースを盤石なものにし、内容を充実させて行くために月2回のK-POP 運営会議をとおして「環境の整備」、「指導教員体制の強化」、とりわけK-POP コースに期待し頑張ろうとしている生徒達のフォローとケア、カウンセラーを含め対策を講じてきた。各種K-POP イベント等（5月MBSホール、文化院主催、7月KJC主催、10月朝日放送取材、ソウル世界大会 or オーディション、ワークショップ、鶴橋クロッシングフェス、11月四天王寺ワッソ、豊川祭り、ワンコリアフェスティバル）に積極参加し技能芸術力の向上に努めた。

IBDP を実施して5年が過ぎ、IB 本部からの学校評価を受ける年度となり、IB コーディネーターを中心にIB 教育を滞りなく進め、自己点検と自己評価結果を本部に報告をした後、2023年3月の学校訪問評価を受ける準備を進めてきた。IB 本部学校訪問は2023年8月に延期となった。

4. 英語教育強化とコリア語教育の充実

英語力の向上が急務な課題としてあげられる中、ネイティブスピーカー教員を中心に週7時間の授業を実施しているが、まだ十分に保護者の期待に応じられていない状況から常勤3人体制で臨み、高みの英語教育の実現を目指してきた。英語検定、校内3言語語彙試験（10月）等に力を注いだ。

コリア語教育は、新入生増加のため教員を4人体制で臨み水準を下げることなく指導を行ってきた。①韓国語能力試験(年間3回受験機会)に年一度は必ず受験することを促し、単語学習と授業中に対策を行う時間を設けた結果、特に学習期間一年未満の生徒の級取得が目立った。②韓国語弁論大会は入賞にはいたらなかったが、K-POP コース生が3名出場し「挑戦」というテーマでスピーチを行うことで実力が伸び、韓国大学への進学に繋がった。③3言語スピーチ大会には中等部が2名、高等部が7名出場し、中等部では最優秀賞を、高等部も優秀賞を獲得するなど日頃の言語学習の成果を披露することができた。

3言語スピーチのテーマは、中等部「私の大切な人」、高等部「私が将来この世の中に貢献できること」で、3言語で原稿を書きスピーチをするので、コリア語だけではなく、日本語、英語の実力向上にも繋がった。

5. キャリア教育と進路指導（留学と多様な進路）

教育改革に伴う、大学入試改革で受験方法が新しくなり、一般受験にも調査書や志願理由書などが必要とされ、学力以外に何をしてきたか、又どのような資格を持っているのかが問われる点も踏まえた対応として、生徒会活動、ユネスコ活動、ボランティア活動、各種行事の参加、校内外コンクール出場、資格取得等、学校生活のあり方を見直し指導して行くようにした。

K-POP コース生の韓国留学（芸術系）の開拓を積極的に行ってきた。

5月の高3保護者面談を皮切りに年間をとおして全体と個別の進路指導に一貫した関心を注いできた結果、18名中7名が日本国内大学、7名が韓国の大学、2名が専門学校に各目標希望した先に進学した。

6. 中等部の基礎・基本学習の見直し

一定の基礎学力と学習習慣を中等部で確立させる指導を引き続き堅持するとともに、様々な学びの方法、きめ細やかな学習指導による基礎学力の伸長・向上を目指して、漢字、英単語熟語、コリア語の単語熟語の定着を図るため定期的な学内検定実施、放課後指導を充実させた。

7. 学校教育改善に向けての視点

- ①10月13日大阪地裁は「本校建造物侵入損壊事件」に対する公判において、懲役3年執行猶予5年の判決を下した。ヘイトクライムを根底にした今回事件につき、学校は理事長心情書等をもって教職員、生徒、保護者への報告説明を行ったが、KIS教育環境はまだ今後も類似事案が発生する可能性もあり、何ら問題の解決はしていないという冷静な観点から臨むべきとの課題を残している。
- ②3年連続で校長が交代する事態となった。年度後半に保護者ミーティング、教職員ミーティングを各2回開催し教育現場における問題と課題について議論が深められた。それは2023新年度の方針策定に繋がったと言う点で貴重な成果があった。

8. 法人運営等

- ①2022年度にも法人運営強化に向けた努力を傾注した。2023年3月の任期満了に伴う、評議員、理事、監事の選任により、評議員13名、理事6名、監事2名の体制となった。評議員会、理事会運営の適正化、方針策定と執行における評議員、理事、監事の責任と役割の強化に向けての契機となった。
- ②KIS教育を支援する後援会がコロナ禍の中で衰退していた状況から、2022年度後半に「KISアボジ会」（在校生卒業生の父親保護者が参加）設立準備を進めた。2023年度4月からの準備を整えた。